

フクロウ *Strix uralensis* Pallas

【選定理由】

標高 1,000m を超える山地から山麓、丘陵地から平野部まで繁殖が可能な種である。本来の営巣環境は樹洞であるが、樹洞のある老齢木は歴史のある社寺林の周辺、あるいは比較的若齢木でも樹洞ができる樹種に限られる。過去にはコンクリートの電柱（中心部が空のパイプ状である）や、焼却炉の煙突などに飛び込む事例が多発し、上部に蓋や網が設置されるようになった。地上や、さらにはスカイラインの路肩にある排水桝で営巣する例までみられ、巣箱の設置が急がれた。巣箱架けと共に自然樹洞を含む繁殖調査の結果、巣箱の効果が高いことが実証されている。しかし毎年管理も必要で、これを全県、全国に普及することは容易でない。農林業の衰退により餌場環境が悪化しているうえに、本来本種の繁殖成功率は安定せず、天敵であるハシブトガラスも増加している。

【形態】

全長は雄が 48cm、雌が 58.5cm。頭部から上面は褐色で、後頸から背にかけて暗褐色の縦斑があり肩羽と雨覆の先端に白斑がある。下面は淡褐色で胸に褐色の縦斑があり、顔盤は暗褐色の斑で縁どられる。羽角はなく、虹彩は暗色、尾は長めで濃褐色の太い横縞がある。



愛知県豊田市, 2018年5月2日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

標高 1,000m を超える山地から山麓、丘陵地から平野まで広く生息して繁殖する。

【国内の分布】

九州以北に周年生息する。国内では、亜種エゾフクロウ *S. u. japonica* 亜種フクロウ *S. u. hondoensis*、亜種モミヤマフクロウ *S. u. momiyamae*、亜種キュウシュウフクロウ *S. u. fuscescens* の 4 亜種に分けられる。

【世界の分布】

ヨーロッパ北部および東部からオホーツク海西岸、アルタイ地方、モンゴル北部、中国北部および東部、サハリン、朝鮮半島に生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

古い社寺林の周囲に農地や竹林などが広がる里山を好むが、繁殖している環境は多様である。繁殖の早いものは 3 月上旬に産卵を始め、4 月下旬には巣立ちするが、標高や気象等の条件により巣立ちが 5 月中旬以降の場合も少なくない。小型哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類などを捕食し、雄はホウホウ、ゴロスケホウホウ、雌はワンワンワンなどと鳴く。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内の山地や丘陵地に広く分布しているが、里山環境以外では生息密度が低い。繁殖期以外は平野部や沿岸部でも見られるが、近年は繁殖地から離れた場所で観察される頻度が低くなっている。

【保全上の留意点】

農林業を振興することで地域文化を保全し、社寺林などを含む健全な里山環境を回復するべきである。老齢木の保存と共に巣箱架けなども積極的に実施して、樹洞に依存して生息してきた生態系の回復を図るべきである。

【特記事項】

1991 年以降、西三河を中心に本種用巣箱の設置に取り組んでおり、成果が確認されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.94-95. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)